

# なかま

プリンストン日本語学校新聞



平成25年度 No.13号

平成25年 8月18日

文責 長尾重範 nagao@pcjls.org

いでや我 よきぬの着たり 蝉衣 松尾芭蕉  
金亀子 擲つ闇の 深さかな 高浜虚子

## 今日の行事

夏休み明け最初の授業日

## 今後の行事予定

- 8月25日 絵画コンクール作品締切
- 8月31日 (土) 元の校舎にもどる日 (算数・数学はありません)
- 9月8日 JASL 入学式 ADULT 秋季授業開始
- 9月29日 前期最終日 (通知表渡し)

**[お知らせ]** 今春より日曜運営部長を務めていただいたりリー則子さんがご家庭の事情で退任されました。日曜日の校内におけるお問い合わせは須藤知美さんをお願いしています。皆さまにはご迷惑をおかけしますが、ご協力をよろしく願います。

## 楽しい夏休みでしたか？

日本ではまだまだ猛暑日が続いているようですが、帰国された皆さんの日本はどうだったでしょうか。きっと日本語のレベルが向上していることでしょうか。今まで以上に言葉に自信を持つことは素晴らしいことです。アメリカ国内でキャンプや勉強に多くの時間を過ごした人も充実した日々を過ごしていますか。また、9月から新しい学校に進む人も多いと思いますが、しっかり準備をして臨んでください。

皆さんは自分の英語又は日本語がそんなに立派ではないと思っているかもしれませんが、しかし、皆さんは実力にいくらか差はあれ、最もバイリンガル話者に近い所にいることを忘れないで、自信を持って、輝かしい将来のためにがんばってほしいと思います。日々は平凡でも、休まずに日本語学校に通う、普通のことの繰り返しですが、大きな自分をつくることを忘れないでください。



日本史シリーズ (1)

「卑弥呼の時代の日本の人口は何人だったか？」

歴史を学ぶのは何のためかと問われれば、私は、未来への選択を誤らないためだと答えています。そのヒントを中学校の教科書に求めて、改めて日本を見つめてみたいと思い、このシリーズを起すことにしました。

歴史は勝者の記録をもとに書かれているものがほとんどなので、時代が古くなればなるほど史実は確かめにくくなります。2012年のNHK大河ドラマ『平清盛』のモデルは、古い時代としては例外的に多くの記録が残されています。それ以前の聖徳太子や卑弥呼などにさかのぼると全体像はぼんやりしすぎて、もしドラマを書くとしたらそのほとんどは脚本家の想像の世界の産物になってしまい、多くの場面で史実とはかけ離れたものになってしまうでしょう。清盛が例外的という理由は、父平忠盛がすでに北面の武士の棟梁として天皇に近いところにいたので、彼の幼少のころからの記録が比較的多く残っていることによります。私は歴史の専門家ではないし歴史オタクには到底かないませんが、おさらいをするつもりで、私が興味深いことについて話題にしていきたいと思います。

まずは、日本の人口です。人口がどのくらいだったのかは時代の様子を知るうえで大事な要素になりますが、昔の人口を推計するのは至難の業だと思っていました。ちなみに教科書には人口について2ヶ所の記述がありますが、一つは「8世紀前半の人口は450万人ほどでした」の記述、もう一つは明治5年の「約3,313万人」です。前者は班田収授法を実施するために人口調査を実施した記録の一部から推定したもので、後者は日本で初めて統一して実施した調査に基づいています。大昔の人口を正確に把握することは不可能ですが、それを推計とはいえ数値化した学者の努力に感嘆するのみです。しかし、そのおかげで私たちはおおよそ昔の人口を知ることができるになっています。その成果によると、縄文晩期は8万人、弥生時代後期では59万人、江戸時代前期で2500万人なのだそうです。この数字でみると、卑弥呼の時代には現在の鳥取県か杉並区の人々が全国に分散している状態のようで、いかにも人口が希薄であったことが想像できます。学者の成果を借りて人口推移の折れ線グラフを描けば、今日の人口は、いわゆる人口爆発といって過言ではないほどの増加率になっています。

どれだけの人々が生活していたのかを頭に入れてみると、それぞれの時代を描きやすい気がします。